

ホクコーリディア®E V箱粒剤

■種類名：フルピリミン・ペンフルフェン粒剤
■有効成分：フルピリミン-----2.0%
ペンフルフェン-----2.0%
■化管法指定物質：ペンフルフェン [第1種] -----2.0%
トリメチル (カクテシ) アンモニウムの塩 [第1種] ---8.9% <<8.3-9.6%>>

■登録番号：第24745号
■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)
■登録初年：2023.02.22
■性状：類白色細粒
■有効年限：5年
■包装：1kg×12袋

【特長】

- 水稻の紋枯病、ウンカ類、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシに高い効果を発揮する。
- 育苗箱施用及び側条施用が可能。
- 新規有効成分フルピリミンを含有しており、既存剤に感受性が低下した害虫種にも有効。
- フルピリミンはミツバチをはじめとする有用昆虫や天敵類に影響が少ない。

【適用内容】(2024年11月末日現在)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む農薬の総使用回数	ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数
稲	紋枯病 イネミズゾウムシ	1kg/10a	移植時	1回	側条施用	3回以内 (直播では種時 又は移植時までの 処理は1回以内、 本田では2回以内)	1回
稲 (箱育苗)	紋枯病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ ニカメイチュウ ウンカ類 ツマグロヨコバイ イナゴ類	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌 約5%) 1箱当り50g	は種時 (覆土前) ~移植当日 移植3日前 ~移植当日		育苗箱の 上から 均一に 散布する。	3回以内 (移植時までの 処理は1回以内、 本田では2回以内)	

【効果・被害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
 - ◆ 専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
 - ◆ 移植後は湛水状態(湛水深3~5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
 - ◆ 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- 育苗箱へ処理する場合は、次の注意事項を守ること。
 - ◆ 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落としした後、十分灌水すること。
 - ◆ 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して被害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
 - ◆ 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などでは被害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
 - ◆ 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は被害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
 - ◆ 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
 - ◆ 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態(湛水深3~5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
 - ◆ 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさけること。
- 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化・褐点を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- 容器・空袋はほ場などに放置せず、適切に処理すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 農薬使用者に係る注意事項
 - ①誤食などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
 - ②散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
 - ③かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。また本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
使用後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- ❖ 保管：直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。